



平成19年5月1日

国土交通省道路局長 様

様似町長 坂 下 一 幸



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け、国道企第114号で通知のあったこのことについて、別添のとおり提出します。

(総務課企画財政係)

中期的な計画の作成にあたっての意見について

様 似 町

・重点化を進めるうえで特に優先度の高い政策

国、地方とも厳しい財政状況の中、政策の重点化や優先度による事業推進の道を模索していくことは当然の帰結である。しかし、この時、念頭に置かなければならないことは「均衡のとれた国土発展を促す」という道路の基本的な使命である。地方の深刻な状況を打破するためには、広域的な連携を可能にする道路基盤整備が必要である。

具体例を示させていただくと、本町では、町内医療機関や近隣の地域センター病院でも高度医療を受けることができない。そのため、万が一の際には3時間前後の時間をかけて都市部に患者を搬送しなければならない。ちょっとした買い物や遊びに行く場合も同様である。このような点を考慮した場合、本町住民がこの田舎まちで暮らしていくため、そして本町の産業を発展させるためには、医療面、交流面でも重要な基盤となる高規格幹線道路日高自動車道を早期に完成させる必要がある。また、本町は後背地が急峻な崖となっている地域も多く、大雨等の際には国道が通行止となるため、孤立地域が生じるだけでなく、観光業者から敬遠されがちである。さらに、平地の少なさからか通学路となっている国道でも歩道が未整備となっている箇所も多い。このように本来「基盤中の基盤」である国道についても完成度が高いとは言えない状況であり、今後とも幹線道路における歩道整備等の交通安全対策を推進していただかなければならないと考えている。

今、国では市町村合併などを推し進め「地方の自立」を盛んに促している。しかし、“大海原の孤島”だけでは自立は不可能なのは明白である。他地域との情報交換や物流を可能とする『確固とした基盤』が必要である。重点化を進めるうえでは、優先政策の一つに、国の政策の大きな柱である「地方の自立」が可能となるような道路基盤の重点整備を盛り込むべきである。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

盲目的な効率化には賛同しかねる。「効率的な道路整備」は、ややもすると利用者の多い都市部道路の重点的な整備や、重要路線であっても事業費が大きい場合は事業中止となることにもつながりかねないからである。しかし、都市部・地方部を問わず優先度の低い道路整備が実施されていることを否めない部分もある。今後、『効率化』を求めるのであれば、住民はもちろんであるが、地方自治体とまちづくり計画などを踏まえた中で協議し、整備必要路線の優先度を決定していくことが重要である。これが効率的な道路整備につながると考える。

また、必要な道路整備を行なうためにも、現国道の長寿命化対策や国や地方自治体との間で、道路維持に関する相互管理協定を検討するなど維持コストを圧縮していくほか、比較的優先度の低い道路整備については、思い切って整備グレードを下げることを検討しても良いと考える。

その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

北海道は、広大な面積を有する割に、高速交通網の整備率が低い状況である。この様々な側面で弱点ともなりうる状況を改善していくためにも、道路整備に最も必要な財源の安定的確保を求めるものである。

また、今後道路整備等を進めていくにあたり、国民のニーズに配慮することはもちろんであるが、パブリックコメントのみでは広い地域からの意見となるか不確定であるので、関係地方自治体等との協議も並行して行っていただきたい。